

演題：私が現在行っているクリスタルアプローチの方法

演者： 森永博臣

日付：2015年11月24日

keyword

1. インプラント
2. クリスタルアプローチによる上顎洞挙上術
3. 上顎洞の形態

抄録

私は2000年にボストンで献体を使った、クリスタルアプローチの実習を行った直後から、クリスタルアプローチによる上顎洞挙上術を行っている。

今回、部分的に高度の骨の吸収が見られ、現状では咬合崩壊に至る症例を、インプラントを用いて咬合再構成を行い、良好な結果を得られたので報告する

患者は55歳の女性で、1999年4月17日に奥歯で物を噛めないという主訴で来院された。

来院した時点で、部分的に高度の骨の吸収が見られ、右上6、2左上2、6は保存不可能と診断し抜歯した。

患者は固定式補綴を希望したため、右上2左上2にはGBR法により骨増生を行い、その後インプラントを植立した。また右上6、7左上6にはクリスタルアプローチによりインプラントを植立し、咬合回復治療を行った。

治療としては、顎位はCO=CRと診断し、プロビジョナルレストレーションにて顎位・咀嚼・審美・発音を確認し、最終補綴物へと移行した。

術後12年経過しているが、全体的に良好に経過しており、インプラントの有用性が示唆された症例だと考えている。

また初期のクリスタルアプローチから使用する器具は色々変遷し今に至っており、現在は見えない手技をいかに安易な方法で成功させるかを考えて手術を行っている。

上顎洞の形態の説明と共に、私の現在行っているクリスタルアプローチの方法を発表する。

諸先生方のご指導よろしくお願いします。